

時事新報定價
時事新報一年三百六十五日一日休刊セズ其代價遞送廣告料ハ左ノ如シ
一月前金六十圓 三月前金九十圓 六月前金一百二十圓 一年前金二百圓

時事新報廣告料前金
一行五號活字廿四行 一日限 六日以上 七日以上
一行二行 十二日限 十一日限 十日限

時事新報

自ら任ずる者は亦自ら省る可し
凡そ事の局に當りて之を仕遂げんとする者は深く信ずる所ありて其事を以て自ら任ずるの意氣込なる可らず蓋し其事の大にして關係の廣きに從ひ之を仕遂ぐるの困難も亦甚だしくして千百の故障あるは必然の勢なれば當局者は深く自ら任じて熱心事に當るの覺悟專一なれども之と同時に亦自ら省みて靜に事の利害を考ふるの餘地なかる可らず如何とされば局に當る者は自ら迷ふを免れずして騎虎の勢、時に或は意外の地に奔逸するの恐なきにあらざればなり就中政治の事に至りては利害の關係種々様々に入込みて隨て人々その所見を異にするのみならず自分の自ら信ずる所にして假令へ其當を得たりとするも不幸にして他の多數の希望に反し其贊成を得ざる時は却て物議の騷々しきを致して爲めに治安を妨ぐるも亦少くせざれば政治上に於ては眞誠の意見必ずしも多數の贊成を得ず多數の意見必ずしも眞誠を尠くして其要は唯一國の治安を致すに在るものとせば爲政の局に當る者は自信して事を處する其傍らに亦自ら省みて時の事情と事の成行とを考へ常に治安の一點に注目するものと肝要なる可し且その身の地位高くして自ら信ずるも厚ければ其周囲隨從の人々も固より利害を共にする者のみにして常々首領の意を迎へんとするの情あるが故に上流に居て其目に映じ耳に入る所のものは多くは自家都合より事のみにして爲めに幾分の聰明を損する所なき能はず是れ亦其地位に伴ふ所の一不利にして甚しきは自信自任の心を一變して自負自慢の極に至らしむるもなきにあらざらずして讀者の常々慨笑する所あり獨のヒスマークは不世出の才を抱き老帝を輔けて聯邦を統一し獨逸帝國の大業を創めたるのみならず歐洲の諸強國を擧進の間に弄びて和戰の權を一手に握りたる大家傑にして其自ら任ずる所も必ず大なるものとあらざらんや

斯の如し之を喻へば相撲の關取り芝居の千兩役者の如し梅ヶ谷が引かば日本の相撲も夫れ切りなり團十郎菊五郎が老朽せば加國を如何せんなど心配するは世間の常あれども梅ヶ谷の後には大連を出し又小錦を生し關菊必ずしも相續なきを憂るも足らざれば日本のヒスマーク、グランドストーンも決して空前絶後非ず相續の有無を付ては先づ安心なる可し抑も今の政府の當局者は何れも維新の功臣にして云はば政府を造り出したる人々なれば自ら任ずるの厚さも固より其所にして又國の治安の爲めにも當分の慮、其人々をして局に當らしむるも然る可しと思ふ所あれども時世の進歩は失の如くにして二十年來の變遷は實に意料の外に出でたるもの少なからず今前の例を以て今後の事を推測するに其難進歩疑ふ可きにあらざれば當局者は深く自ら省みて日新進歩の時勢に應ずるの覺悟なかる可らず顧みに徳川幕府の末年に今の明治の當局者が頻りに四方に奔走して事を企つるに當り當時の執政等は自ら信ずるの厚き彼書生輩何をか能くせんやとて自ら省る所なき其中に遂に養生堂をして大事を爲すに至らしめたるものは時勢の然らしむる處と云へ幕人も亦油斷の甚だしきものと云ふ可し左れば今の當局者も天下の事に當り自ら大に任じて其信ずる所を行ふは固より可なれども之と同時に又深く自ら省みて時勢の進歩と人情の變遷とに注意して一國の治安を謀るも專一なる可し

拒絶せしに眞砂氏等は同社長鈴村三郎氏の私宅に推し掛け其請求をなす等随分混雜を極めたる趣は前日の紙上に記載せしが今又同地よりの報を見るに其後眞砂氏等數名の士族は同社の士族等に用ふる錢を役員より取り直に舊藩主の許へ私共徳義社總代より錢を受け取りたるに付役員を改換したる上同社經濟の事を取計ひ然るべきやとの旨を申越せし由然るに一の不可思議なるは終始先して役員に抵抗せし眞砂氏は社員の衆議を以て除名せられたり去りながら氏は目下官吏侮辱の廉を以て警察署に拘留中なれば自ら任ずるを知らざれども他日家に歸りて之を開きたらんは如何ある處置をなすべきや定めて立腹するもとあらんと氣遣ひ居る人もありと云ふ

世界第一の健康地

英國の首府倫敦と云へ開けば一年の半は濃霧に閉込られたる上に家々の煙筒より立登る石炭の煙は街道に溢漫して行人の鼻口を衝き家屋の外観より路傍の樹木に至る迄爲に黒色に變ずる有様ありとは何人も知る所なれば染より衛生家の永住に適するの地は非ざるべしと思ひの外又一方には昔く衛生法の行居き居れば倫敦も是に實に今日世界第一衛生の好都會にして未來も亦益々然るものあらんと云ふ其次第は本年六月に至るまで前三箇月間の統計表を見るに該府一箇年間死亡の割合は僅に人口千人に付十六人にして若し市中病魔の異病とも稱すべき汚穢の貴民町を除いて其他を計算すれば尙ほ大に其割合を減すべく若し亦更に高潔にして空氣清眞の地を擇みて住居する者は實に全地球無比の健康地と稱すべしされども今、歐洲大陸中第一健康の勝地と稱するも尙ほ其割合は十八奇零九を下ると得ず左れば世界有名都會二十九箇所の死亡割合を平均する時は實に千に付二十六奇零六に當るが故に差引倫敦の割合に超過する事千人に付十人餘に居るもの、由果して然らば倫敦の住民も却て獨り能く其天壽を全するの便利を享有する者と云ふべしと云ふ

○白耳義の中立并に佛蘭西の軍略
世人の知る如く方今歐洲の二大強國ある佛蘭西は互に爪牙を磨き佛は機に乗じて國を討ち以て巴里城下の耻を雪がんと欲し獨も亦不意に佛の鋭鋒を挫き彼をして復讐の念を勵しめ以て益々新機を固めんとす而して此兩大國と境壤を接し能く嚴正中立を守り不偏不黨の地位に立てる二小國は瑞、西と白耳義なり今若し佛をして瑞西を據らしめんか獨逸を犯すの道を求むべく又若し獨をして白耳義を略せしめんか佛國を攻むるに容易なるべし實に此二小國の向背は兩國の軍略上に一方ならざる影響を及ぼすものあり近著の英國雜誌は白耳義の中立を懸し白國が佛蘭西國と對する軍略上の位置を論じたる一文を掲げれば左に譯載せん曰く若し夫れ種々の事情をして一様ならしめれば白耳義は獨逸と對して瑞西の佛蘭西に於けるが如き軍略上の位置を保つならん獨逸は佛蘭西が抵抗の用意をなすに先ち白國を侵略するからば佛が瑞西を擧げし時に於ける如く東方形の境界を得るからん而してコロニン府(獨逸)も屯在する獨兵が白國を経て進入し自由なる運動をなすを得ばオイス河(オイス河は白耳義シメー府の近傍にある一清流と佛國ロックロイ府の近傍にある一清流と相合して起り南西方に流れてオイス河に合せり)の流域を兼ひオイス河を流る佛國、オイス河に合せり)の流域を兼ひオイス河を流る(河なり)の背に出で以て佛國が自國の東境に接して張りたる精銳の防禦線と成るべし佛都巴里は白耳義の境界を距る僅に百零五哩にしてメツツ(獨逸)イレーン州の首府)及びリヤ(白國)リヤ州の首府)より百七十哩の距離なり今獨都柏林よりコロニン、リヤ及びリヤ(白國)リヤ州の首府)を通じて巴里まで一直線を引き得べし然る時は巴里、柏林、メツツの三點は三角形を形造り頂點のメツツより巴里、柏林の底邊までの距離百哩なり然るのみならず佛、白の境は百八十哩に亘り獨逸間の境界の長さ七十五哩に比して百五哩の差あれば白國の境上より進軍する獨兵の司令官は瑞西の境より運動を始むる佛軍の大將よりも攻撃線路を擇ぶに便なり又佛兵運動を催すに當りシャツフホーセン(瑞西の最北端)以西如何なる場處より獨逸に攻め入らんとするも、黒、森(獨逸南西の山地)の險に據て阻まらざらんや雖も白國より進軍する獨兵は佛の北方を通ずる四大線の内を擇ぶを得べし實に此の如き明白なる利便あるにも拘はらず細かに形勢を観察すれば獨は佛を襲ふ等に白耳義の領土を犯すも無かるべく若し之を侵さば實際軍略上の利益を得るよりは事ろ失ふ所あるべしと云ふも過言にあらざらんや

○時事新報
(本誌) 封皮 九分
(本誌) 封皮 九分
(本誌) 封皮 九分

○時事新報
(本誌) 封皮 九分
(本誌) 封皮 九分
(本誌) 封皮 九分

○時事新報
(本誌) 封皮 九分
(本誌) 封皮 九分
(本誌) 封皮 九分